

《県営畑地帯総合整備事業》 八重瀬町 安里地区

地区の概要

当地区は、さとうきび・野菜作を中心とした農業を行っているが、露頭岩の点在で機械化が難しく、農地区画は不整形で、農道や排水路が未整備である。また、当地域は丘陵地形の島尻マージ土壌のため、保水性に乏しく干ばつの被害を受けやすく、耕作放棄地が多い地域であった。

当地区は、地下ダムによる水源確保を進めている国営かんがい排水事業の受益地であり、本事業での区画整理・農道・排水路の整備と相まって、安定的な農業生産活動を展開している。

事業概要	
受益面積	26.8 ha
受益戸数	142 戸
主要工事	
区画整理	26.8 ha
農業用排水施設	26.8 ha
総事業費	8億1,400万円
	(国75%、県14.5%、 村7.5%、受益者3%)
事業工期	6年(平成9年～平成14年)

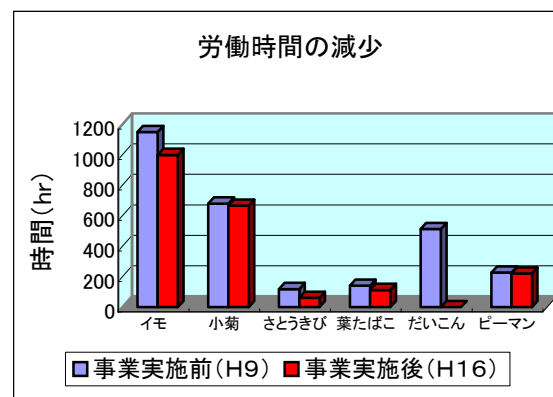
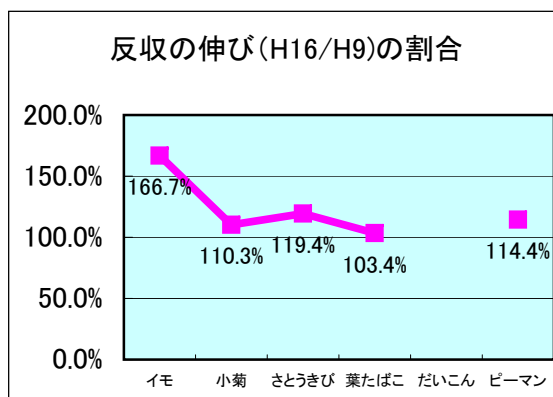
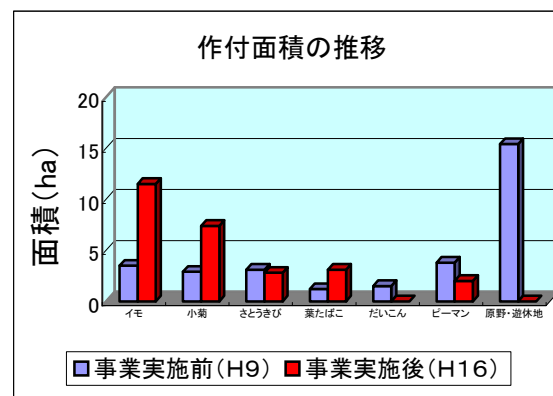


作物の転換状況と発現効果

事業実施前は45パーセント以上が遊休地や原野となっていたが、事業実施後は、イモ・小菊・ピーマン・葉たばこが作付けされ、原野遊休地が無くなった。

また、地下ダムの整備により農業用水が確保されるとともに、本事業で農地に隣接する給水栓まで配水管が整備されたことにより、給水・運搬作業が軽減されるとともに、就労時間の軽減が図られている。

さらに、品質向上が図られるようになったため、反収の増加が著しい。



栽培技術の確立

生産体制の組織化・育成及び団地化とともに、育苗・栽培施設や植付機・選別機等近代化施設の整備・共同利用、栽培技術の向上による出荷規格の徹底等により、産地指定の確立に努めている。

特に、小菊生産農家の活性化を図るために、JAも生産部会を中心として支援をしており、担い手生産者によるブランド品目（秋芳）の植え付け・管理指導、および県外出荷体制の確立による安定生産の確保を進めている。

当面、産地指定とブランド銘柄の確立を目指している。



写真① 小菊の栽培状況



写真② ピーマンの栽培状況

営農面の特徴

農協との連携を強化し、県外出荷を中心とした組織化の育成を図り、栽培技術の高度化、高品位平準化・出荷規格の厳守等により、産地銘柄の確立に努めている。

また、かんがい施設整備による給水栓の設置により、農作業の改善がなされ、大規模農業が実施できるようになった。



写真③ イモの栽培状況



写真⑤ 施設（給水栓）の状況



写真④ さとうきびの栽培状況